

看護教員の魅力とは？ 看護の未来をつくるシゴト

看護師養成所教員の魅力発信 第1回

医療を取り巻く状況が変化する中、看護職が国民や関係職種からの期待に応えるためには、これまで以上に高い能力を備える必要があり、看護職の育成は重要な課題である。本会では、看護師基礎教育の4年制化という抜本的な教育制度の改革を掲げ、4年間の看護師基礎教育の推進とともに、現行教育の課題解決に向けた取り組みを行ってきた。

本会の取り組みの一つとして2018年度に実施した「看護師養成所の教員の勤務実態等に関する会員調査」(以下、会員調査)では、看護師養成所(以下、養成所)に勤務する看護教員(以下、教員)の負担が、教員の人材不足に影響している実態が明らかになった。また、厚生労働省の「看護基礎教育検討会報告書」(2019年10月)においても、教員の業務負担が教員確保を困難にしていることが指摘されている。

2019年現在、全国の看護師等学校養成所・研究機関で勤務する看護教員等は19,872人、就業している看護職員1.2%で微増傾向にある。将来の看護を担う学生に、体系的で質の高い基礎教育を行うためには、教員の質の確保とともにマンパワー確保も重要となる。

看護教員のやりがい

教員の仕事は、負担という部分に焦点が当てられがちだが、その一方で、会員調査では、看護師養成所で働く教員のやりがい・面白さには「学生の成長・モチベーションの向上」や「学生からの信頼」、「知識・経験の獲得」「自身の成長やその機会の豊富さ」「教育の質向上」など多くの要素があることも明らかにされている。

今年度、本会では養成所に勤務する教員にヒアリングを行い、教員を目指した理由や教員になるまでに勉強したこと、教員としてやりがいを感じた場面、働き方などについて話を聞いた。その中で共通していた教員の魅力は「学生が演習や実習などの看護経験を通じて自己を確立させながら成長していく過程を目にし、実感できること」、そして「教員自身も、学生との関わりを通じて人として成長できること」に醍醐味があることが分かった。また、養成所の教員は「学生一人一人を大事にする教育」を行うため、教員間の連携を密にしながら、学生に対してどのように教育するのがよいか、話し合いを行っている。これにより、自己の教育を振り返り、さらなる教育力を高めるべく、日々自己研鑽していることが分かった。

また、多くの養成所は、社会のニーズに応じ、実践の場で活躍できる看護職を輩出するという使命を持って教育に当たっているが、社会環境や家族構成の変化などに伴い生活体験が減少しており、例えば、高齢者と関わる機会が少ないといっ

た学生をどのようにして育てていくかという新たな課題に直面している。教員は、学生が看護を深く理解するとともに、自ら考え行動できる看護職として巣立ってよう、基礎教育から実践の場の看護職とシームレスな連携の下、教育を創っていくという重要な役割を担っている。

教育現場と医療現場の相互理解

学校法人日翔学園高知開成専門学校看護学科の教員である松本佳代氏は、2021年度に本会の委託事業である「看護師養成所と病院の人材交流のモデル事業」に参画した経験を通じて「教育現場と実習施設



松本佳代氏

が協働して基礎教育を展開していく必要がある」と述べた。そして、「双方向のやりとりによって、互いの役割を知って理解を深めることができることや、臨床の看護師が基礎教育に参画することによって、看護教員を目指す人材が出てくることは十分に期待できる」と力強いメッセージを語った。臨床の看護職が基礎教育に関わることは、学生への教育効果のみならず、臨床現場での継続教育にも多くのプラスの影響がある。

本連載では、看護職の皆さまが教員の魅力を知り、自身のキャリアを考える際の選択肢の一つとして教員を捉えていただけるよう、来月から2回にわたって、現在、教育の場で活躍している教員の実際の声を届けていく。